

病害虫情報 No. 13

**果樹を加害するチャバネアオカメムシの越冬成虫は
平年よりやや多い。**

今後の発生情報に注意してください。

[現在の状況]

昨年秋の、ヒノキ樹上における果樹カメムシ類の越冬前の成虫数は過去 5 年と比べてやや多かった。

本年 2 月、県内 40 地点で落葉中におけるチャバネアオカメムシの越冬成虫数を調査した結果、1 地点当たり平均虫数が 2.9 頭で、平年よりやや多かった。また、越冬成虫を確認した地点の割合は 55% で、平年よりやや高かった（第 1 表）。

以上のことから、本年 4 月から 7 月にかけて活動する越冬成虫の発生量は、平年よりやや多いと予想される。

第 1 表 山林の落葉中におけるチャバネアオカメムシの越冬成虫数及び発生地点率

年	H10	H11	H12	H13	H14	H15	H16	H17	H18	H19	H20
越冬成虫数(頭) ^{注1)}	1.3	1.5	0.2	12.2	0.3	2.3	0.2	0.1	13.1	0.1	2.9
発生地点率(%) ^{注2)}	55	37	11	75	22	48	10	7	74	10	55

注 1) 落葉 30 リットルあたりの平均虫数

注 2) 越冬成虫を確認した地点の割合 (%)

[今後の調査予定及び防除対策]

越冬成虫は、4 月頃から活動を開始し、年によっては 5 月頃から果樹園へ飛来する。越冬成虫の活動状況については、病害虫防除所の最新の情報を確認し、防除の参考にする。

越冬成虫は、5 月頃はクワ・サクラ果実などを吸汁し、7 月になると主な繁殖場所であるスギ、ヒノキ林で球果を吸汁しながら繁殖して、7 月からは第 2 回成虫が発生する。病害虫防除所では、チャバネアオカメムシの発生予察のために、越冬量調査（2 月）、予察灯調査（4～10 月）、サクラ（5 月）及びヒノキ（7～10 月）における生息調査を行っている。今後の調査結果により発生予想が修正される場合があるので、最新の情報を確認する。

果樹カメムシ類の生態及び最新の情報については、病害虫防除所ホームページ（アドレス：<http://www.pref.ibaraki.jp/nourin/byobo/>）で確認できる。

果樹カメムシ類に対しては、多目的防災網（6mm 目以下あるいは 9mm クロス目以下）を張るなどの物理的な防除対策が有効であるため、早めの展開を心がける。